

# 人間と環境との繋がりを学習するための環境教育の課題と役割

矢野 祥誉 (学生コース)

## 1. はじめに

環境問題の解決とよりよい地球との共存が求められる現在、人間はその生涯を通じて環境との繋がりを学ぶことが必要であり、環境教育はその主導的な役割を果たすと考える。本研究では、小学校児童を対象とした環境教育を実践し、環境との繋がりを考え自発的・主体的・持続的に活動できる児童の育成を目指した。また実践を通して、今後環境教育を継続していく上で求められているものは何か、より効果的な指導方法や教材の在り方を追求した。

## 2. 授業実践

栗東市治田東小学校第5学年2組の児童（男子14名、女子14名、合計28名）を対象として、「総合的な学習の時間」において地球温暖化問題を主題とした環境教育を実践した。

第1回「総合的な学習の時間」の実践では、地球温暖化の仕組みと人間との関わりを学習内容とした。授業を通して、地球温暖化がどのように起きているのかを、人間が与えている影響と関連付けながら、児童が学び、考えることを目指した。

第1回の実践から次の実践まで1週間の期間を設け、児童が地球温暖化問題に対して自分にできることを考え実践する時間として設定した。活動内容は、第1回実践において、家庭用学習教材として作成した「ちきゅうノート」を児童に配布し、そこに記録させた。「ちきゅうノート」に記録する活動は Refuse・Reduce・Reuse・Recycle・Research の5分野とし、児童はこれらの中から活動分野を1つ、あるいは複数選択し、実践したことを記録した。

第2回「総合的な学習の時間」では、児童一人ひとりに活動内容を発表させ、お互いの活動内容についての確認・共有をおこないながら、人間が地球とよりよく共存するために必要なことは何かを考えさせ、人間には課題を追求し、目標を成し遂げようとする力があるということを実感させることを目指した。

## 3. 結果・考察

本研究における環境教育の実践を通して、授業を受けた児童は地球温暖化という内容に対し集中して参加することができた。また環境問題と向き合った時、興味や関心を持ってそれに取り組むことができた。児童が作成した「ちきゅうノート」には、家族全員でリサイクル活動をおこなったり、日常生活の中から環境問題と関わりがある事柄をまとめたり、水素エネルギーを利用した社会を立案したりと、個性溢れる児童の活動と夢が記録されていた。環境教育の内容は普遍的なものであっても、児童の実態や学校・地域の特質などによって自在に変化・活用できることが分かり、環境教育を実践するにあたっては、継続的な授業研究・開発をおこなっていく必要があることが明らかとなった。